

新しい年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。職員の皆さんも新しい気持ちで2016年を迎えられたことと思います。2015年は大村智先生が医学生理学賞、梶田隆幸先生が物理学賞と2人の研究者がノーベル賞を受賞し明るい話題を提供してくれました。地道に研究を継続されたことに頭が下がる思いです。スポーツの世界ではイングランドで開催されたラグビーのワールドカップでエディジャパンは世界のトップクラスの強豪南アフリカを破り予選3勝という快挙をなし日本中が歓喜しました。南アフリカ戦終了間際、ペナルティキックを行えば同点になる状況でリスクの高いスクラムによる攻撃を選択し逆転勝ちしました。何度もその場面の映像が映し出されましたが、このラストプレーでのトライは感動的でした。これらの明るい話題とは対照的に、昨年4月に非公務員化した国立病院機構の各施設は長期公経済負担、労働保険制度の導入が行われたことにより、多くが厳しい病院運営を強いられる状況となってきました。高知病院も運営状況が今まで以上に厳しくなりましたが全職員の努力によりこの9ヵ月を乗り越えてきました。平成28年度に診療報酬改定が行われますが、今回は施設基準の厳格化、国の財政事情を踏まえた改定が予想されており、今後の病院経営は益々厳しくなってくると思います。このような環境の大きな変化に対応するため継続して国立病院機構の役割を果たしていける強靱な体制の構築が求められています。毎年年末になると今年の漢字が発表されますが2015年今年の漢字は「安」でした。「安」が選ばれたのには政治的なことや国民が安心感を求めていること、あるいは将来への不安など様々な理由があるかと思いますが、医療にとっては安心できる、あるいは安全の医療の提供の「安」と言えると思います。このような医療を提供するには全ての職員が自分に与えられた職務を基本に忠実に実践していくことが重要ではないでしょうか。エディジャパンの活躍によりラグビー選手がマスコミに出場する機会も増えラグビーに関する様々な情報が伝わってきています。その中でone for all, all for oneという言葉がよく話題になっています。一人はみんなのために、みんなは一人のためにと訳されていますが、後半のoneはvictoryであるとの意見もありみんなは勝利のためにとも言われています。この言葉を大きな意味でとらえてみますと私達の病院にもあてはまると思います。つまり、職員一人一人がみんなのことを考えながら仕事することで、働きがいのある職場となり、職員や患者さんにとっての理想的な病院となることができるとも言えます。今年は、病院目標や職場の目標の単なる言葉として終わらせないため、結果を求めその評価をしっかりとしていきたいと考えています。医療にとっては逆風の環境ですが職員一丸となって安心、安全の医療を患者さんに提供し地域に信頼される病院となるとともに、機構の使命遂行のため、組織の一員として今年も頑張っていきたいと思います。